

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 可児高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月4日(水) 14:00~16:00
- 3 開催場所 可児高等学校会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
- | | | |
|-----|--------|-------------------------|
| 会長 | 奈良 隆夫 | 可児高校PTA会長 |
| 副会長 | 佐野 政紀 | 可児市立蘇南中学校長 |
| 委員 | 橋本 和彦 | 可児市商工会議所員 |
| | 石村 真梨乃 | 可児市役所商工振興課主査(欠席) |
| | 菰田 さよ | 可児市国際交流協会職員 |
| | 杉浦 浩子 | 岐阜医療科学大学看護学部学科長(欠席) |
| | 野村 次郎 | 総合型地域スポーツクラブFCV 理事長(欠席) |
| | 山口 伸行 | 坂戸地区自治会長 |
| | 高木 博光 | 坂戸地区副自治会長(欠席) |
| 学校側 | 川地 晃正 | 校長 |
| | 山田 哲志 | 教頭 |
| | 金子 香織 | 事務長 |
| | 田之本麻衣子 | 教務主任 |
| | 水谷 賢司 | 生徒指導主事 |
| | 浅野 太一 | 進路指導主事 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 令和7年度学校評価とそれに対する意見聴取について

意見1: 生徒、保護者とも教育目標やスクール・ポリシーの認知割合が低い。学校の情報を得るにはホームページが有効だが、ホームページの印象が以前と比べて暗い。

⇒コンテンツ管理システムを変更したことによるもの。専門知識を有する人だけでなく誰もが作成でき、発信も早くなり内容は充実してきているが、ホームページデザインについては、明るい印象になるよう検討する。

意見2: 生徒の授業におけるICT機器活用の割合が低い。中学校と比較してタブレット利用が遅れている。

意見3: 生徒の基本的な生活習慣やマナーを守る意識の割合が高い。これが学校の安定につながっていくため非常によい。

意見4: 生徒の行事や部活動を通して充実した学校生活を送っている割合が高い。これ

らの活動により非認知能力が養われ学校活動も活発化する。

(2) 学校課題の共有及び解決に向けて（委員を2グループに分割して協議）

① 生徒支援部の取組みについて

「不登校生徒への支援の在り方について」

意見1：不登校や別室登校の理由が、学校内の友人関係ではない生徒は、学校生活が原因の不登校等ではない可能性がある。

意見2：義務教育では家庭が抱える問題や学校で友人関係が構築できない等、不登校の理由は幅広く全校生徒の約6%が不登校と言われている。本校の少なさは、もっとプレイスや保健室、通級指導といった居場所やサポート方法が可視化され、居場所がつけられていることが理由と考えられ、温かい教育ができています。

「交通安全意識向上のための取組みについて」

意見1：本校はヘルメット着用を義務化しているが、下校時はノーヘルメットの生徒が見られるものの、登校時は概ね着用できている。義務化した成果であり、たいへんよい傾向である。

意見2：ヘルメットを着用しなければいけない理由を理解させれば着用率は向上するのではないかと。着用率を高め、地域小中学生の模範になってもらいたい。

意見5：以前は道幅の狭い道路にも関わらず自転車で並列走行する生徒がいたが、最近は少なくなった。いい行動は褒めてもらいたい。

⇒集会等を利用してよい行動は褒めていきたい。

② キャリアサポートセンターの取組みについて

「キャリアサポート重視の進路指導方針への変更について」

意見1：多様化する社会の中で学びに向かう力を育む取組みはこれからの時代を生き抜くためにはよい方針変更である。

意見2：授業では生徒同士の話し合いの中で自分の考えを述べることができている。主体的な力を育てる授業が行われており、非認知能力の伸長が期待できる。

意見3：点数を重視しない入試も増えてきているが、自分に合った人生を歩むためにも非認知能力を伸ばすキャリアサポートは重要である。

「生徒が生き方を主体的に考えるきっかけとなる効果的な手立てについて」

意見1：社会に出るとストレスは多くなるが、学校行事を含め色々な体験をすることで乗り越えていく力がつく。経験値を高めてもらいたい。

意見2：保護者以外の身近な大人として教職員がいる。教員の経験を聞くことは生徒が将来を想像するきっかけになる。

⇒教員の経験に基づく話は、教科の内容以外でも興味深く聞きよく覚えている。

意見3：政治家やノーベル賞受賞者は地方出身者も多い。生徒にやる気を持たせ、意気込みを育てていってもらいたい。

6 会議のまとめ

学校評価の結果についての感想や今後の方向性について、委員それぞれの立場から多くの意見が出された。学校生活を通じて生徒へのサポートを充実させることで、地域から期待され、社会を支えることができるリーダーの育成を目指したい。